

## また会う日まで



会員 中山 基義

「安易な道を選ぶのではなく、ストラッグル\*1しないとダメだよ」。昨年、私が司法修習生として配属された刑事裁判部のある裁判官の言葉だ。「ストラッグル」。まだ法曹資格を有していなかった私の心に、この言葉が響いた。その裁判官は、最高裁判所調査官も経験し大変頭の切れる方で、「テキパキ案件を処理している」というイメージを抱いていただけに、その裁判官の言葉を意外に感じたのを覚えている。弁護士になったら、安易な道に逃げずにストラッグルするようになりたい、そう思ったのであった。

弁護士になってから、私は「ストラッグル」することを心掛けるようにしていた。どんな案件も私にとって初めてのことだらけで、分からないことだらけである。先輩弁護士にとって当たり前のことが、私にとっては当たり前ではない。分からないことにぶち当たった時、先輩弁護士に解を求めれば、楽だし仕事も早く終わるかもしれない。それでも、私が刑事裁判部で出会った裁判官の言葉を思い出し、一歩立ち止まって、調べて、自分で考えてみる。こんな具合に日々案件と格闘していた。

それでも、色々な案件をやると、そうそう時間をかけていられないことも多い、というかそのような案件の方が大半といっても過言ではない。依頼者から短い納期が設定され、先輩弁護士への提出期限はそれよりももっと短く設定される。必要以上に考えすぎていると、時計の針はどんどん過ぎてゆく。結局、提出期限に間に合わず怒られたこともある。それに

加えて、自分なりに悩みに悩んで結論を出したとしても、先輩弁護士に簡単に却下されることだって多い。そんな経験を積んでいくうちに、次第に「効率化」や「早く終わらせること」を目指していた自分に気付くのである。

早く終わらせることを目指して仕事に取り組んでも、案外、しっかり考え取り組んだときと結果が変わらないこともある。そして、早く終わった方が気持ち良いし、仕事も出来た気になってくる。しかし、落とし穴はそんな時に待っているのである。自分ではこれで完璧と思っても、先輩弁護士にミスや検討不足を指摘される。見直してみると、もう少し検討していれば、もう少し丁寧にチェックしていれば、防げたようなミスであることが分かる。そんな時に脳裏をよぎるのは、やはり、私が刑事裁判部で出会ったあの裁判官の、あの言葉である。「安易な道を選ぶのではなく、ストラッグルしないとダメだよ」

ストラッグルなどしていても誰も気付かないかもしれない。ストラッグルなどしていても、誤りは生じてしまう。安易な道に逃げたいという思いはいつだって生じる。そんな思いに駆られて、最近は安易な道に逃げがちかもしれない。初心を忘れていたのかもしれない。このリレーエッセイを執筆しながら気付く。今日からまた、刑事裁判部で出会った裁判官の言葉を思い出し、初心に帰り頑張っていきたい。そして、いつか、成長した姿を、ストラッグルの集積を、感謝を胸にあの裁判官に見せられたらと思う。

\*1：ストラッグル (struggle) …苦闘すること。もがき。